

## 平成と私—阪神淡路大震災—

平成は災害が多かった時代である。神戸人には平成7年に発生した阪神淡路大震災が忘れることができない大地震であった。神戸人には神戸地震である。

### 1. 不意打ちの地震

なぜか関西には地震は無いという「都市伝説」がありほとんどの人が地震には無防備であった。私も地震発生時に大きな揺れは感じたが「とうとう関東で大地震が発生したか」と思っていた。出勤のため鞆を持ち、のこのこ地下鉄の駅に行ったが当然動いていない。しかしまさか神戸で大地震が発生していたなどとはゆめゆめ思わなかった。それを知ったのは地震発生後、数時間後と記憶している。朝7時のNHKニュースでも報道していなかった。

官邸、マスコミも含め関西はノーマークでしかも大阪が大きな被害は無かったためか神戸で大被害が発生していることを把握するまでかなりの時間を要した。

### 2. 偏狭な被害地域

阪神淡路大地震は活断層が動いた都市直下型地震であった。断層の真上極近の比較的狭い範囲で被害が多かった。淡路島、明石市、神戸市垂水区は震源地には近いが断層から少し離れているためか比較的被害は少なく、その東の恐らく断層の真上の須磨区、長田区新長田地区、三宮、灘区、東灘区などの被害が大きかった。途中の兵庫区、元町はなぜか比較的被害は小さかった。しかし都市部の住宅密集地であったため古い木造家屋倒壊、火災などにより約6400人の命が奪われた。震度7を記録した三宮は鉄骨構造の建物は致命的な損傷をうけたものの倒壊はしなかった。また地下街、地下鉄も大きな被害は無かった。地上を走るJR、阪神、阪急は大きな被害を受けたが被害地域が微妙に異なり運転可能な区間を乗り継ぐと大阪へは行けた。新幹線は新神戸駅からすぐトンネルに入るためあまり被災しなかった。

### 3. 六甲最高峰は12cm隆起—活断層型地震はどこでも起こり得る—

神戸市のすぐ北側は六甲山地（六甲山系）である。六甲山という山は無い。最高標高のピークを六甲最高峰と呼んでいるが地震後、標高931.25mになり12cm隆起した。100万年前は海底だったが約1000年ごとに隆起し現在の700～900mの山系を形成している。つまり関西には地震は無いとの都市伝説は完全に誤りであった。まだ未発見の活断層は日本全国無数にありいつでもどこでも地震は起こり得る。特に信州はフォッサマグマの真上にあり糸魚川—静岡構造線は松本付近を通っており上田にも近く、厳戒体制でもおかしくない。不意打ちだけは絶対に避けるべきである。 以上

(2019年3月記)



地震発生日（平成7年1月17日）の神戸新聞夕刊。神戸新聞ですら地震の全容が分らず共同通信の配信のまま「近畿で大地震」の見出しであった。

六甲最高峰の標高が地震により12cm隆起し931.25mになったことを示す最高峰の銘板。

